題目　日常にある交換の類似度調査による分類　－多次元尺度構成法を用いたマッピング－

氏名　松村豪大

指導教員　高橋伸幸

我々は、日常生活の中で様々なものを他者と交換している。日常生活における人々の相互作用は、概ね社会的交換としてとらえることができ、対人的相互作用におけるこうした様々な財の交換を社会的交換という（山岸, 2001）。社会的交換がいわゆる経済的な交換と異なる点は、交換される財の多様性にある。社会的交換では物質的財だけではなく、心理的財や社会的財、サービスや情報までもが交換される。Foa,E.B., & Foa,U.G. (1976) は、こうした交換財を経験則による知見や常識に基づき、個別性と具体性という 2 次元で分類し円環的に配置した。そのような分類の一方で、人々による実際の類似性判断をもとにした分類も可能である。本研究では人々がどのようにある交換と別のある交換の類似性を認識しているのかまず Web 上で一般人を対象に調査を行った。そして対象間の関係を、類似度と対象間の距離とが単調関係を満たすように対象を点として多次元空間内に位置付けることで表現する多次元尺度構成法（Multi-Dimensional Scaling, 以下 MDS）を用いて、現代日本で行われている交換の分類とマッピングを試みた。MDS による表現では、対象間の類似度の大小の関係を、各対象の点間の距離によって視覚的に把握することが可能である。調査では、現代日本社会において広く行われていると思われる交換 32 個を用意し、回答者には、「交換 A」と「交換 B」はどの程度似ていると思いますか、という問い方で、2 つの交換間の類似度を 4 件法で回答してもらった。その結果、2 次元の段階で、贈与交換の群と売買交換の群とが非常にはっきりと左右に別れて表現された。そのため本研究では解釈しやすい 2 次元での結果を解とすることとした。視覚的に解釈しやすい方向に各次元を直交回転させることにより、贈与交換群、買い物群、サービス群の 3 つの群に分類した。